



藻場造成の経済効果 対照区(磯焼け漁場)と設置区(再生藻場)のウニの実の状態

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
美国・美しい海づくり協議会／余別・海HUGくみたい
【積丹町】

ウニから始まるSDGs～ウニと藻場の循環型再生産システムの実践

【はじめは？】

積丹町では、町の特産品であるウニが、磯焼け現象により減少していました。積丹町の漁業者で構成されている当組織は、ウニの生産量の減少を食い止めることを目的に、海の森づくり（ホソメコンブの藻場造成）を平成21年度から開始しました。

【おもな活動】

当組織は、ウニの安定生産・供給のため、ウニの餌となるホソメコンブの養殖や廃棄物であるウニ殻を施肥材として利用した藻場再生により、持続可能な漁業を推進しています。

また、水産と畜産の連携の取組として、町内の農業法人が飼育する羊の餌に養殖コンブを与えることで、肉質を向上させたり、積丹町地域活性化協議会が行う海藻などの水産物を利用した商品開発にも協力しています。

漁業と環境保全の理解増進のため、地元の小学生を対象とした体験学習や、町内外の小学生や都市部の一般市民を対象としたセミナーを開催し、これらに用いるプロモーション動画の作成も行っています。



コンブの餌を食べる「しおかぜ羊」



漁業への理解増進活動（ウニ養殖見学会）

【ここが自慢】

ウニ殻肥料による海の森づくりで藻場が再生され、その藻場で育ったウニを漁獲するという「ウニと藻場の循環型再生産」が実現し、ウニの生産量と品質が向上するとともに、SDGsの目標達成にも寄与しています。藻場の保全・創造は、二酸化炭素の吸収源となるため、当組織は「ブルーカーボンクレジット」の取引を行い、得られた資金を藻場造成の拡大に利用することを計画しています。

積丹町では、これらの活動により、「自然、人、産業の和で築くまち」を目指しています。



ウニ殻肥料づくり



ホソメコンブの収穫作業

連絡先

代表者名：白川 浩治さん 澤 貴幸さん
 ／設立：2008年／会員：123名

住所：積丹郡積丹町大字美国町字船澗48番地5

電話番号：0135-44-3382

F A X：0135-44-2125

E-mail：nourin@town.shakotan.lg.jp

U R L：



ワイワイ楽しく後志の魅力を発信しています(*´艸`)o

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
しりべし女子会
【後志管内】
 女性目線で、後志の魅力を引き出します



【はじめは？】

平成28年9月、北海道新幹線の札幌延伸を見据え、道南と青森県の女性で結成された「津軽海峡マグロ女子会」などに刺激され、「後志を元気にしたい女子同士が繋がったら、何か良いことができるのではないか」という考えのもと、後志管内の各地で精力的に活動している女性に声を掛け、しりべし女子会は結成されました。

【おもな活動】

会員(しり女)は、管内各地の観光資源を巡り、地域のお祭り、勉強会、交流会に参加して、自分たちが楽しむ姿を発信しています。

女性目線で、今まで埋もれていた後志の魅力を引き出し、各地のしり女がネットワークを作り、協力して観光案内できる体制を整えるべく活動を行っています。

【ここが自慢】

民宿経営、カメラマンなど多彩な職種の女性がメンバーとなっており、しり女オススメMAPの作成、農漁男子写真展・しりべし川柳の開催、地元食材を使った商品開発への協力などを行っています。

これらの活動を通して、地域に人を呼び込み、交流人口を増やすことを目指しています。



農漁男子写真展season2に向けて「寿都しり女」はカメラマン



しりべし川柳を開催



ラジオニセコの収録風景
 「倶知安しり女」はパーソナリティ



寿都町で行われた
 手作り味噌の会に参加

連絡先

代表者名：池本 美紀 さん／設立：2016年／会員：7名

住所：北海道虻田郡ニセコ町中央通139-1-101

電話番号：0135-76-5480

F A X：0135-76-5480

E-mail：info@shiribeshi-kyoshikai.com

URL：<https://shiribeshi-kyoshikai.com/>
<https://www.facebook.com/shirijyo/>



留寿都村



保育所との交流（収穫作業）

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体

北海道留寿都高等学校

【留寿都村】

農業体験交流と花いっぱい運動による人材育成

【はじめりは？】

留寿都高校では、10年以上前から村唯一の高校として、観光客が多い留寿都村の景観をより良くし、地元住民、観光客に楽しんでもらいたいと考え、高校生が播種から生育管理まで携わった花を活用した村内の花壇造成活動、施設への花の配布などを続けてきました。また、地域の子供たちに、幼少期からの食農教育を通して、地域や農業の大切さを伝え、地域産業に携わる人材になってほしいと考え、保育所・小・中学校と連携した体験的学習活動を続けています。

【おもな活動】

- ・地域の保育所・小・中学校との農業体験交流
隣接する教育機関と連携し、生徒が、子どもたちに農業を教えながら、播種から収穫・試食までを行います。畑が通学路からも見えるため、育つ様子も学ぶことができます。
- ・花いっぱい運動
地域の景観美化等を目的とし、道の駅や公園、介護老人保健施設などの花壇造成を生徒全員で行っています。



小学生との交流（播種作業）



福祉施設での花壇造成

【ここが自慢】

留寿都高校は、全国唯一の「農業福祉科」の学校であり、「地域の将来を考えられる人」「人の気持ちを考えながら行動できる人」の育成をしています。

農業体験交流では、留寿都村の地域特産物であるジャガイモをはじめ、サツマイモ、エダマメ、スイートコーンなどの播種・定植から収穫までの生産活動を行っています。保育園児には植物の成長を肌で感じてもらい、小、中学生には植物の成り立ち、栽培の特性についても学んでもらえるよう取り組んでおり、高校生が、子どもたちに農業の素晴らしさや食のありがたみを伝える機会になっています。

花いっぱい運動では、生徒たちが播種から生育管理までを行い丹精込めて栽培した花を、全校生徒で村内各所に出向いて植え、地域の各施設への花の配布も行うことで、村全体の景観形成に貢献しています。

連絡先

代表者名：川嶋 修一さん／設立：1951年／会員：61名

住所：北海道虻田郡留寿都村留寿都179-1

電話番号：0136-46-3376

F A X：0136-46-3386

E-mail：miura.hajime@rusutsu.ed.jp

URL：https://rusutsu-highschool1.ed.jp/



幅広い年齢層の方々が、赤井川村のチェックポイントをメグリました

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体 特定非営利活動法人 赤井川観光協会 【赤井川村】

あかいがわポイントメグリラリー誕生～コロナ禍で生まれた新たな観光事業

【はじまりは？】

赤井川村の観光事業である村の産業まつりは、コロナ禍にあって休止となりました。コロナ禍でも実施できるイベントはないかと検討し、令和3年に初めて企画、開催されたのが「あかいがわポイントメグリラリー」です。

【おもな活動】

令和3年から年1回実施しているメグリラリーは、観光・農業・食を融合させたイベントで、チェックポイントでの写真撮影を行いながら、村内を巡ることで、赤井川村の景観の良さを体感し、村の特産品（カボチャ、とうもろこし、パプリカ、メロンなど）を知り味わうことができます。

このイベントは、地域の農家、商店、建設会社、アクティビティ事業者などの協力のもと実施されており、これまで1歳から81歳まで幅広い年齢層の方々が参加し、交流を深めています。

赤井川観光協会は、イベント内容の充実を進め、SNSの積極的な活用を通じた情報発信に重点を置くことで、観光客の増加を目指しています。



チェックポイント巡り



朝採りとうもろこしの試食

【ここが自慢】

赤井川村は、その四方を山々に囲まれたカルデラの里であり、夏はひまわり畑や清流のせせらぎ、秋は白樺の紅葉、冬は白銀のパウダースノー等、美しい景観を形成しています。

赤井川観光協会では、農村景観維持のため、草刈りやゴミ拾いなどの活動を行い、自然豊かな村の魅力を体感していただくため、フォトコンテストやほたる鑑賞会など各種イベントを実施し、地域一体で観光地域づくりを行っています。



令和元年開催のフォトコンテスト
最優秀賞 カルデラを照らす星々



ほたる鑑賞会にて

連絡先

代表者名：佐々木泰文さん／設立：2007年／会員：43名

住所：北海道余市郡赤井川村字赤井川83

電話番号：0135-34-6611

F A X：0135-34-6614

E-mail：akaigawa@rose.ocn.ne.jp

U R L：https://www.facebook.com/akaigawa.akarin
https://twitter.com/akarin_akaigawa